

ほしの高志の道政通信

この通信は郵送、全戸・街頭配布をおこなっています。星野高志事務所/札幌市東区北24条東8丁目 電話750-5277

新港への企業誘致で雇用増を

地域活性化の可能性
 これまでは、水を大量に使う水産系や自動車工場などが立地の中心でした。先月の星野道議の質問で、最近では屋内農場やバイオ関連など新産業の進出など様変わりしてきました。地域



石狩市を含む札幌圏人口は250万人。新港地域は、札幌圏の産業拠点だ。

地域活性化の可能性

活性化の可能性が出てきたと言えます。しかし、水道本管から工場までの配水管は進出企業負担のため、多額の経費がかかり、進出に二の足を踏んでいる企業があるのも実態です。星野

道議は、「本管から遠く離れた場所に進出しようとする企業側の費用負担

を軽減させることを考えないと、工業用水の需要は拡大しない」と述べました。これに対して企業局長は、「星野委員の指摘も踏まえ、他府県における

事例など、企業負担軽減を図る方策について調査するなどして、企業誘致の推進につなげる」と答弁しました。星野道議は、「雇用拡大にもつなげた」と話しています。

石狩湾新港地域は札幌圏の産業拠点です。札幌市内の雇用確保に重要な意味を持つ地域です。道庁は、道内外から企業誘致を進めています。道議は、同地域に工業用水を供給している道庁企業局と議論しました。



2015年2月

進出企業の負担軽減で立地増を

「石狩湾新港地域に進出を検討している企業、特に本管から遠い場所の企業にとって工業用水は、重要な課題となる」と主張する星野道議。

こんにちは、星野高志です。さて、中央政界では再び政治資金をめぐる問題が続発し、閣僚辞任という事態にまで発展しています。政治に対する信頼回復は道平は感じます。私は、二十年前の初当選以来、「言ったことはやる。出来ないことは言わない」を政治信条として参りました。これからこの初心に常に立ち戻り、政治に対する信頼を取り戻すため全力を挙げよう決意です。

脱原発北海道の実現、平和主義の徹底、格差拡大の解消、社会保障の充実、環境の保全、食の安全確保と、課題は山積しています。

地域を歩き、たくさんの皆さんから、ご意見やご要望を頂いた四年間でした。こうした貴重なご意見を政策に反映させ、一つひとつ実現するために、しっかりと働いて参ります。変わらぬご指導をお願い申し上げます。二〇一五年三月

星野高志

北海道議会議員

北海道に札幌に、吹かせよう新しい風

佐藤のりゆき

元フリーキャスター。ラジオで道民と対話

「もっと豊に、もっとわくわく」

星野道議が、十年ほど前に民主党北海道の幹事長を務めていた頃のこと。当時仕事の関係で知り合った二人は、北海道の将来についてよく語り合いました。佐藤さんが「北海道独立の気概」を主張すれば、星野道議は「建国の気概」を訴えるなど、意見もよく合ったそうです。サマータイム導入でも、二人の考えは一致。例えば一時間早めるだけで、北海道はいち早く世界経済と取引することが可能になるのです。



佐藤のりゆきさんと星野道議は旧知の仲

星野道議と、地域で共に活動する仲間たちを紹介します

秋元克広

前副市長、上田市長の懐刀。

「上田市政を、継承発展させたい」

上田市長と三十年来の友人関係にある星野道議は、市長政策室長や副市長時代の秋元克広さんと、何度もお会いする機会がありました。そのたびに星野道議は「ああ、秋元さんに支えられて、上田さんは市民自治を掲げる上田市政を思う存分に進めることが出来るんだな」と感じてきたと話しています。区長時代に市民対話を進めてきた秋元さんは、役人臭さが、ちっともありません。

上田市政を支え続けた、秋元克広さん



市役所出身の星野道議は、市政と道政のパイプ役



必す期待に応えます
 札幌市議会議員
 ふじわら 広昭



ささや愛の東区
 札幌市議会議員
 しのだ江里子



新人、市政に挑戦
 東区民主党副代表
 成田祐樹

星野道議略歴

1951年…東京都葛飾区で生まれる
 1970年…都立大理学部(物理)入学
 1974年…緑の大地に憧れ来道
 1975年…市営地下鉄南北線運転士

1995年…北海道議会議員初当選
 2002年…議会エネルギー委員長
 2004年…民主党北海道幹事長
 2007年…議会経済常任委員長

2008年…環境プロジェクト座長
 2011年…脱原発プロジェクト座長
 2013年…道民の日プロジェクト座長
 現在…東区民主党代表(道議5期目)

新エネの弱点を克服 水素が、北海道を変える

2014年2月

電力の貯蔵や輸送も可能に

水素が、脱原発のカギを握る次世代エネルギーとして注目されています。

太陽光発電は、夜発電しない。風力発電は、風がなければ発電しない、という弱点があります。しかし太陽光や風力で発電した電気をそのまま使

うのではなく、その電気で水を電気分解し、水素をつくり、貯蔵しておくことが出来れば話は別です。貯蔵した水素を燃料として、必要な時に必要



「水素社会は目前。脱原発のカギを握る技術として期待したい」

なだけ発電することができるところからです。極めて安

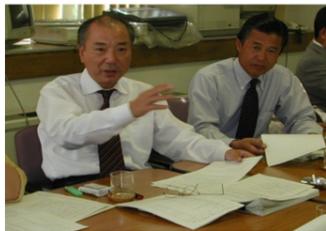
野道議の質問に知事は、「水素は、無尽蔵に存在する水からも製造が可能で、利用段階で二酸化炭素を排出しないなど、環境面でもすぐれている」「新エネルギーの貯蔵、輸送などの手段として、幅広い分野での活用が期待されている。今後、次世代を担う有力なエネルギー源の一つとなる」などと答弁しました。

道議は「水素社会の到来は目前。脱原発のカギを握る技術として期待しています。水素が北海道を変える」と話しています。

2012年10月

民主PT(星野座長)が基本文書を発表

私たちの選択—脱原発



議論をリードする星野道議

炉を開発するというもの。しかしプルトニウムは放射能が半分になるまで2万4千年もかかる猛毒物質です。PTでまとめた「私たちの選択、脱原発」という文書では、核燃料サイクルからの撤退を明確に国に求めています。基本文書では、太陽光、

社長発言に騒然

プルサーマルに関わり、北電が展開した「やらせ」問題をめぐり、北電社長を参考人質疑しました。

民主党を代表して星野道議が「社長自らが指示を出したのではないのか」「これだけの不祥事を起こして減給だけで済ますのでは道民は納得しない。経営責任として辞任すべきだ」と迫りました。

これに対して佐藤社長は「現場がやったことで私は知らない」「辞めるつもりはない」と、聞き直りとも聞ける態度。傍聴席は騒然となりました。さらに道議は、当時の原子力部長で現常務の酒

2011年11月

北海道電力
北参 参考人質疑

「私は、やってない」

知事「北電に総括を求める」



委員会室に並ぶ報道陣。佐藤社長(当時)の「私は関与していない」発言には、マスコミ各紙から厳しい指摘が。

井氏が、海外出張を理由に委員会質疑を欠席したことについても問いただしました。「酒井氏は当時の関係幹部として唯一、現在も在職している。北電の第三者委員会も、氏の指示は濃厚としながら、証拠がなかったとして、参考人として出席させないために、海外出張をさせたのではない

か」と追及。社長は、「私の代わりに出張させた」と答えるのみです。道議は、「納得できない」として、エネルギー委員会の斎藤委員長に、「酒井氏の参考人質疑を日を改めて実施したい」と、求めました。

道議会民主党の中にも、原発に関しては様々な意見があります。そこで、星野道議が座長を務めるプロジェクトは、二ヶ月に及ぶ議論を重ね、党派としての統一見解(基本文書)をまとめました。日本の原子力政策は、「核燃料サイクルの確立」を基本としてきました。使用済み核燃料を再処理し取り出したプルトニウムを燃料とする高速増殖

2013年8月

「違反者は、契約破棄」

エネ委員会

星野道議の質問で、太陽光発電の計画数と、工事着工数とのギャップが判明しました。太陽光発電導入促進に逆行する事態です。

12年7月、再生可能エネの固定価格買い取り制度がスタートしてから、多くの企業が事業申請

しかし中には、売電の権利を確保した上で、施工費が年々安くなることを見につけ、なかなか着工

しない例が全国で見られ始めました。制度では一度申し込んだ場合、その価格は権利として維持されます。ところがパネルの設置工事などは、技術革新で毎年どんどん下がります。ここに着目した悪意の事業者が、より利

益をあげるため、長期間着工しないケースがではじめたのです。道有地を賃貸して事業をおこなうケースもありますが、こうした不正を事前に防止する必要があります。

在職者向け 代替訓練も

廃止は知事公約にも違反

ものづくり産業の担い手不足が深刻な問題となっている中、星野道議は、高等技専のあり方について議論しました。

東区には道立高等技術専門学院(高等技専)があります。昔の職業訓練所です。大工さんをはじめ、各種技能者の育成に、重要な役割を果たしてきました。地域の中小企業経営者からも「技能者が高齢

化している中で、人材供給は助かる」と高い評価を得ている施設です。ところが道は、財政難を理由に、なんと一教科

縮小計画を再考すべき」と本会議で知事にたずねました。

これに対し知事は、「廃止する科目については、電気工事士、消防設備士、ブロック建築技能士等を養成する委託訓練や、在職者向けの訓練を代替訓練として実施する。産業ニーズに対応し、短期的な訓練の充実を進める」と答弁しました。

道議は「科目廃止は時代に逆行している。今回は在職者向けの代替訓練を知事に約束させることが出来たが、地域需要に応えるためには、さらに充実が必要」と話しています。

知事「産業ニーズに対応」

星野道議への答弁

道議は、「ものづくり産業振興には、人材育成が欠かせない。地域や関係業界の声に耳を傾け、



多くの卒業生を出し、地域の中小企業から評価される高等技専。

札幌高等技専 訓練科目廃止

2014年2月

地域の課題

三角点通りに矢印

2011年8月

「三角点通りを右折し、中沼に向かう交差点が危険なんだ」という相談に、星野道議は現地を視察しました。



信号機だった矢印が、赤信号で渋滞解消も。

右折する車の数はかなりのものです。対向車線の直進車両も多いため、一回の信号で右折できる車の数には限りがあります。そのため、赤になつた後も三台、四台と右折していくではありませんか。過去にも

2012年6月

差点を左折して一方通行路を逆進する車が時々あり危険だ」という相談

町内の皆さんは、「これで安心して道路が渡れる」と話されていました。

東区内には、一方通行路がいくつもあります。右に向かう一方通行路と交差している場合、当然左折はできません。ところが、「交

標識の位置を変更

識とならんでついていたのです。これだと停止線まで止まっている車の後方になってしまい、見えないことがわかりました。



一方通行路の逆心は事故につながりかねません。道議は早速現地を視察。左折禁止の標識が、「停止線」標

5期目 ハイライト